

## 肩・胸・脇・背を含む慣用句と比喩

上条由実・富所諒子<sup>1</sup>

### 1. はじめに

言語を通して日本人が世界をどのようにとらえているのか。このことを身体慣用句と比喩の研究から明らかにしていく。身体の肩、脇、胸、背について、今回は比喩の成分による分類から身体慣用句分析を試みた。

### 2. 比喩の形式

まず今回研究対象とする肩、脇、胸、背の比喩表現の、どこが比喩となっているのかを、沖(2003)は以下のように分類している。(身体語を“N (=noun)”, 述語を“P (=predicate)”とする。)

- (1) N [比喩] P [比喩] =全体で新たな比喩
- (2) N [比喩] P =全体で新たな比喩
- (3) N P [比喩] =全体で新たな比喩
- (4) N P =全体で新たな比喩

これに従って、まずそれぞれの身体慣用句を(1)～(4)に分類してみた。また分類しかなかったものは「(5)その他」とした。

- 【肩】
- (1) 肩が軽くなる② 肩が良い② 肩が悪い②  
肩に掛かる 肩の荷が下りる 肩を入れる②  
肩を貸す 肩を並べる② 肩を持つ
  - (2) なし
  - (3) 肩が怒る① 肩が怒る② 肩が軽くなる①  
肩が凝る① 肩で風邪を切る 肩で笑う  
肩を=怒らす (=怒らせる) 肩を落とす  
肩を並べる① 肩を張る
  - (4) 肩で息をする 肩を組む 肩を疎める  
肩を窄める
  - (5) なし

<sup>1</sup> 信州大学人文学部文化コミュニケーション学科 日本語教育学専攻 3年生。

- 【脇】 (1) なし  
 (2) なし  
 (3) 脇が甘い  
 (4) なし  
 (5) 脇の下
- 【胸】 (1) 胸が合う① 胸が痛む 胸が一杯になる  
 胸が踊る 胸が裂ける 胸が騒ぐ  
 胸が潰れる 胸がつまる 胸が弾む  
 胸がはりさける 胸が塞がる 胸に当たる  
 胸に聞く 胸に刻む 胸に迫る  
 胸に手を当てる 胸に手を置く 胸の内  
 胸を痛める 胸を打つ③  
 胸を=踊らす(=躍らせる) 胸を貸す①  
 胸を貸す② 胸を借りる 胸を焦がす  
 胸を潰す① 胸を=撫でおろす(=撫でる)①  
 胸を=撫でおろす(=撫でる)② 胸を弾ませる  
 胸を晴らす 胸を開く 胸を脹らます  
 (2) 胸が悪い① 胸が悪い④ 胸を明かす  
 胸をときめかす 胸をはだける  
 (3) 胸がつかえる① 胸が焼ける 胸につかえる①  
 胸のつかえ 胸を張る  
 (4) 胸を叩く  
 (5) 胸痛し①
- 【背】 (1) 背にする  
 (2) 背に腹はかえられぬ 背を合わす 背を向ける  
 (3) なし  
 (4) 背を丸める 背を向ける②  
 (5) なし

このように分類したものを次の表にまとめてみる。

〔表〕 比喩表現の構成別うちわけ

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	計
肩	9	0	10	4	0	23
脇	0	0	1	0	1	2
胸	32	5	5	1	1	44
背	1	3	0	2	0	6

身体語自体が比喩になっている身体慣用句は(1)(2)である。肩に関しては全体の約43.5%、胸においては全体の約72.7%を(1)が占めていることに注目したい。特に胸は、(2)も合わせると約84.1%がそれになるのである。

### 3. 比喩の意味

#### 3.1 暗喩と換喩

では次に身体語自体に焦点を当て、(1)(2)の身体語がどのような比喩となっているか見ていく。(1)(2)のような比喩表現を「a.暗喩」「b.換喩」とに区分してみる。

まず、暗喩と換喩の定義を以下に示す。

【暗喩】 修辞法の一つ。事物をたとえていう場合に「…のようだ」「…の如し」「…に似たり」などの語を使わずに、直接にたとえるものと、たとえられるものを結びつける比喩法。隠喩。

【換喩】 修辞法の一つ。ある事物を表現するのに、それと深い縁故のあるもので置きかえる法。角帽で大学生を、鳥居で神社を、弓矢の道で武道を表すなどの類。

『日本国語大辞典 第二版』より抜粋

以下、それぞれの語について、比喩を分類していく。

#### 3.2 肩

肩を使った慣用句の暗喩は、1) 負担・責任、2) その人の持っている力、の二つに分類できた。肩は、物を担ぐ時に使用する部位であるので、担ぎ上げる物が、負担や責任として捉えられるようになり、担ぐ時に使う力が、ただ単純に担ぐ力というだけではなく、その人が持っている力や能力というように意味が広がったのではないかと考えられる。

##### a. 暗喩

＜責任・負担＞

肩が軽くなる② 肩に掛かる 肩の荷が下りる

＜その人の持っている力＞

肩を入れる② 肩を貸す 肩を並べる②

肩を持つ

肩は物を投げるときに使う場所である。そのため、肩と物を投げることには近接性があると考え、換喩とした。

##### b. 換喩

＜物を投げる＞

肩が良い② 肩が悪い②

### 3.3 胸

胸を使った慣用句の暗喩が、何を比喩しているのか考えてみると、1) 衣服の胸の部分にあたる場所、2) 心、3) 感情があらわれる場所、4) 力が上位の者、の四つに分類できた。胸が感情のあらわれる場所として捉えることができるのは、日本人が心と胸が同じ場所にあると考えていることが関係しているのではないかと思う。

#### a. 暗喩

<衣服の胸の部分にあたる場所>

胸が合う①

<心>

胸が痛む	胸が一杯になる	胸が踊る
胸が騒ぐ	胸が潰れる	胸に当たる
胸に聞く	胸に刻む	胸の内
胸を痛める	胸を痛める	胸を打つ
胸を=踊らす (=躍らせる)		

<感情があらわれる場所>

胸が一杯になる	胸が踊る	胸が騒ぐ
胸が潰れる	胸が裂ける	胸がつまる
胸が弾む	胸がはりさける	胸が塞がる
胸に迫る	胸に手を当てる	胸に手を置く
胸を痛める	胸を打つ③	胸を=踊らす (=躍らせる)
胸を焦がす	胸を潰す	胸を=撫でおろす (=撫でる) ①②
胸を弾ませる	胸を晴らす	胸を脹らます

<力が上位の者>

胸を貸す①② 胸を借りる

換喩は、肺を指し示すもののみであった。胸の中には、肺やその他の臓器があると考えられるので、両者は近い関係にあると思い、換喩であるとした。

#### b. 換喩

<肺>

胸が悪い④

### 3.4 背

背を用いた慣用句の中で暗喩のものが、何を比喩しているか考えてみると、1) うしろ、2) 重要ではない、の二つに分類できた。背は人間の身体の中なので、うしろに位置するものなのでそこから、背が「うしろ」をあらわすということになったのではないかと思う。また、身体の背面にある背には、前面にある腹に比べて、重要な臓器がない。そのため、背というものは腹に比べ

て重要度が低いと考え、重要ではないという捉え方ができるのではないかと考えた。

a. 暗喩

<うしろ>

背にする 背を合わす 背を向ける①

<重要ではない>

背に腹はかえられぬ

b. 換喩

なし

#### 4. まとめ

肩、胸、背の暗喩・換喩が何を比喩しているのか、何を指し示しているのかということを考えてみると、日本人は、肩を物を担ぐ時に使う場所、胸を心がある場所、背を身体の中でうしろに位置するものというように捉えて、そこからさまざまな比喩を担う慣用句を作り出していることがわかった。

【参考文献】

G. レイコフ・M. ジョンソン/渡部昇一他訳 (1986) 『レトリックと人生』大修館書店  
金水敏・今仁生美 (2000) 『意味と文脈』岩波書店  
沖裕子演習用レジュメ (2003/1/7 配布)

【参考資料】

日本国語大辞典第二版編集委員会 小学館国語編集部 (2001) 『日本国語大辞典 第二版』